

[演題 8]

一般住宅地におけるフェロモントラップ調査から明らかになったこと
ノシメマダラメイガとコクゾウムシについて

○宮ノ下明大（農研機構食品研究部門）・佐野俊夫（法政大学生命科学部）

The Indian meal moth and maize weevil captured by pheromone traps placed at residential areas of the Kanto region, Japan, 2015 and 2016.

○Akihiro MIYANOSHITA (Food Research Institute, NARO) and Toshio SANO (Faculty of Bioscience and Applied Chemistry, Hosei University)

近年、食品に対する昆虫混入が問題になる中で、一般住宅地周辺での食品害虫の生息状況を把握することは、消費者の家屋での混入リスクを推測する際に基礎的な情報となると考えられる。著者らは、関東各地の一般住宅地の屋内外で食品害虫を対象にトラップ調査を実施してきた。その中からノシメマダラメイガとコクゾウムシについて明らかになったことを報告する。

ノシメマダラメイガを対象に2016年10、11月に関東地方（東京都、埼玉県、神奈川県、茨城県）の5ヶ所で調査を行った。トラップは、一戸建て家屋やマンションに、1か所につき屋内と屋外に1個ずつの計2か所設置した。屋外では5か所のすべての地域で、屋内では1か所のみで捕獲された。捕獲消長をみると、本種は11月に入ると捕獲が著しく減少した。屋内での捕獲個体は3個体であり、発生源を確認できなかったことから、屋外からの侵入と考えられた。今回の調査は、一戸建て1戸、集合住宅4戸で、屋内捕獲があったのは集合住宅1戸であった。

コクゾウムシを対象に2015年4～7月と10～11月に関東地方（東京都、埼玉県、千葉県、茨城県）の13か所で調査を行った。東京都府中市で5月と6月に1個体、茨城県つくば市で6月に1個体が捕獲された。10～11月には捕獲されなかった。調査地付近に玄米貯蔵施設等の発生源はなく、越冬個体が周囲に少ないと思われる一般住宅地においても、少数であるがコクゾウムシが春季に活動していることが示唆された。関東地方の野外で本種の活動が確認されたのははじめてである。捕獲地点のつくば市においては、近隣の公園にあるコナラ堅果にコクゾウムシの発生が確認されており、一般住宅地において家屋に飛来する個体の発生源になる可能性を示した。